

100年の技術と信頼を明日へ



広栄化学工業株式会社



## Contents

株主の皆さまへ	01
部門別の概要	03
財務諸表	04
財務ハイライト	05
株式・会社情報	06
トピックス	07

## 株主の皆さまへ

平成29年4月1日 ▶ 平成30年3月31日

第157期 報告書

## 株主の皆様へ



代表取締役社長

岡本 敬彦

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、代表取締役社長に就任いたしました岡本敬彦でございます。  
創立100年を迎えた伝統ある広栄化学の社長という重責を担うことになり、  
身の引き締まる思いがしております。

競争がますます激化する化学業界において、株主の皆様やお客様といった  
ステークホルダーの方々から、これからも信頼していただける企業を目指して、  
全力を尽くしてまいる所存でございます。

さて、当事業年度のわが国経済は、個人消費の回復は鈍いものの海外経済の  
堅調な成長に支えられ輸出が増加し、好調な企業業績を背景に設備投資が改善  
するなど、景気は緩やかに回復しました。

このような情勢のもとで、当社は、売価是正、拡販およびコスト削減に注力  
し、全社を挙げて収益確保に努めてまいりました。

この結果、当期の売上高は前期比5%増収の181億44百万円となりました。  
利益面におきましては、原料コスト上昇の影響がありましたが、販売数量の増加  
および固定費削減により、営業利益は15億円27百万円(前期比8.9%増益)、  
経常利益は17億3百万円(前期比22.5%増益)となりました。当期純利益につき  
ましては、大阪工場に係る譲渡関連損益63億71百万円の特別利益の計上

により、54億41百万円（前期比379.4%増益）と大幅な増益となりました。

当期の期末配当につきましては、1株当たり20円の普通配当に、創立100周年記念配当10円を加え、1株当たり30円とさせていただくことといたしました。なお、中間配当金の8円（普通配当4円、特別配当4円）は株式併合の影響を考慮いたしますと40円（普通配当20円、特別配当20円）となり、中間配当金を加えた当期の年間配当金は、1株当たり70円となります。

今後の見通しにつきましては、堅調な海外景気や企業業績の改善を受けた設備投資の高まりにより、緩やかな景気回復が続くと予想されます。

このような状況におきまして、当社は、引き続き拡販および競争力の強化に一層注力するとともに、新製品の早期上市に取り組み、収益改善に努めてまいります。

平成30年度は中期経営計画（平成28年度から平成30年度まで）の最終年度に当たりますので、本計画で掲げた「100年の技術と信頼を明日へ」のスローガンの下、基本方針を着実に実行し、計画の達成に全社を挙げて取り組んでまいります。

また、環境問題並びに製品の安全性、品質の確保には引き続き万全を期し、顧客の期待に応えられる信頼性の高い企業を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞご事情ご賢察のうえ、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成30年6月

株主の皆さまへ P.1

部門別の概要 P.3

ファイン製品部門  
化成品部門  
次期業績予想

財務諸表 P.4

貸借対照表の要旨  
損益計算書の要旨  
要約キャッシュフロー計算書

財務ハイライト P.5

株式・会社情報 P.6

株式の状況  
会社概要/役員

トピックス P.7

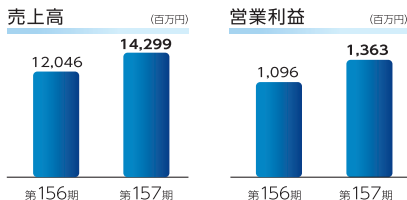
持続可能な社会への貢献

■ 部門別の概要 ■ 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

**ファイン製品  
部門**

用途：医薬品、界面活性剤、  
ゴム類、農薬、染料、溶剤、  
接着剤など

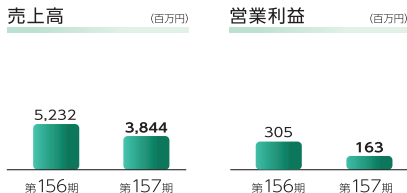
医薬業関連化学品は、北米向け農業関連製品及び欧州向け医薬中間体の販売が伸長し増収となりました。機能性化学品は、光学材料関連の新製品の販売に加え、触媒関連製品の需要が順調に推移し増収となりました。  
この結果、当部門の売上高は142億99百万円、営業利益は、13億63百万円となりました。



**化成品  
部門**

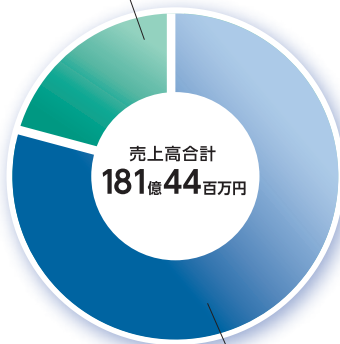
用途：接着剤、合成樹脂、塗料、  
インキ、潤滑油、可塑剤 など

多価アルコール類は、原料価格上昇による売価是正を進めましたが、ペンタエリスリトール類の事業譲渡に伴う輸出の減少に加え、国内関連需要が大幅に減少し減収となりました。その他化成品は原料価格変動による売価上昇により増収となりました。  
この結果、当部門の売上高は38億44百万円、営業利益は、1億63百万円となりました。



化成品部門

**21%**  
売上高38億44百万円



ファイン製品部門

**79%**  
売上高142億99百万円

■ 次期業績予想 ■

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位:百万円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
19,000	1,200	1,400	1,000

■ 貸借対照表の要旨 ■

(単位:百万円)

科目	前期 平成29年 3月31日現在	当期 平成30年 3月31日現在	科目	前期 平成29年 3月31日現在	当期 平成30年 3月31日現在
<b>資産の部</b>	<b>23,969</b>	<b>29,470</b>	<b>負債の部</b>	<b>9,482</b>	<b>10,009</b>
<b>流動資産</b>	<b>11,252</b>	<b>15,165</b>	<b>流動負債</b>	<b>7,015</b>	<b>6,778</b>
現金及び預金	307	360	買掛金	2,510	2,840
売掛金	4,917	5,311	短期借入金	1,840	830
商品及び製品	2,946	2,830	その他	2,665	3,108
仕掛品	880	891	<b>固定負債</b>	<b>2,467</b>	<b>3,231</b>
原材料及び貯蔵品	665	842	退職給付引当金	1,722	1,782
その他	1,535	4,930	その他	744	1,448
<b>固定資産</b>	<b>12,716</b>	<b>14,304</b>	<b>純資産の部</b>	<b>14,487</b>	<b>19,460</b>
有形固定資産	10,333	11,322	株主資本	13,049	18,049
建物	3,190	6,059	資本金	2,343	2,343
機械装置	1,757	3,227	資本剰余金	1,551	1,551
その他	5,385	2,035	利益剰余金	9,167	14,169
無形固定資産	49	42	自己株式	△11	△13
投資その他の資産	2,333	2,940	評価・換算差額等	1,438	1,411
<b>資産合計</b>	<b>23,969</b>	<b>29,470</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>23,969</b>	<b>29,470</b>

■ 損益計算書の要旨 ■

(単位:百万円)

科目	前期 平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで	当期 平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで
売上高	17,278	18,144
売上原価	12,774	13,821
売上総利益	4,504	4,322
販売費及び一般管理費	3,102	2,795
営業利益	1,402	1,527
営業外損益	△11	176
経常利益	1,390	1,703
特別損益	155	6,089
税引前当期純利益	1,546	7,793
法人税等	410	2,351
当期純利益	1,135	5,441

(注) 1株当たり当期純利益 232円03銭 1,112円47銭

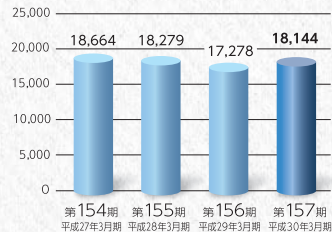
※平成29年10月1日付け、普通株式5株を1株とする株式併合を実施しており、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算出しております。

■ 要約キャッシュフロー計算書 ■

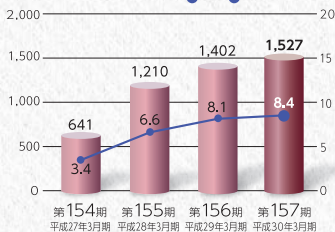
(単位:百万円)

科目	前期 平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで	当期 平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,337	977
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,777	4,149
財務活動によるキャッシュ・フロー	491	△1,462
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	△11
現金及び現金同等物の増減額	55	3,652
現金及び現金同等物の期首残高	752	807
現金及び現金同等物の期末残高	807	4,460

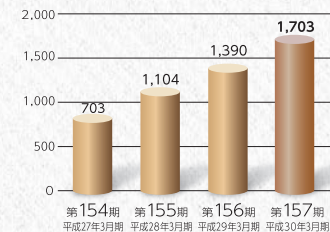
## 売上高 (百万円)



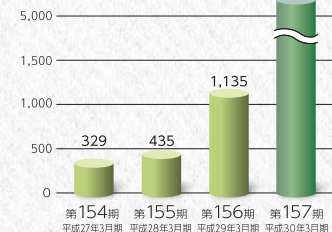
## 営業利益 (百万円) / 営業利益率 (%)



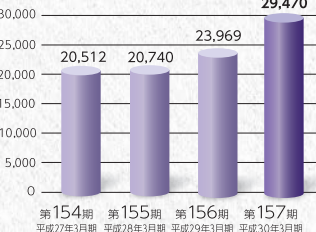
## 経常利益 (百万円)



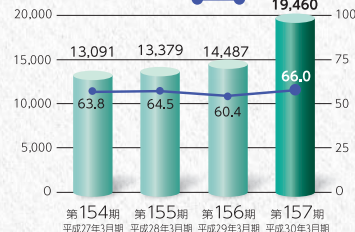
## 純利益 (百万円)



## 総資産 (百万円)

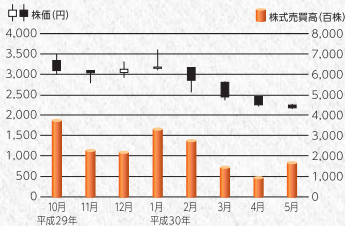


## 自己資本 (百万円) / 自己資本比率 (%)

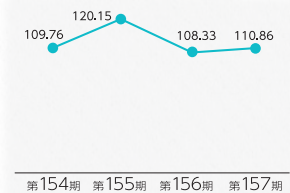


## 株価の推移

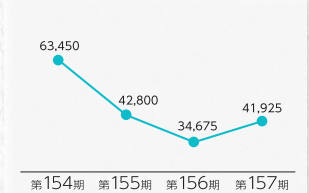
## 株式売買高の推移



## 平均為替レート (円/ドル)



## ナフサ価格 (円/KL)



※平成29年10月1日付けで株式併合を実施しており、それ以前の株価と比較障害が生じておりますので併合後の株価のみ記載しております。

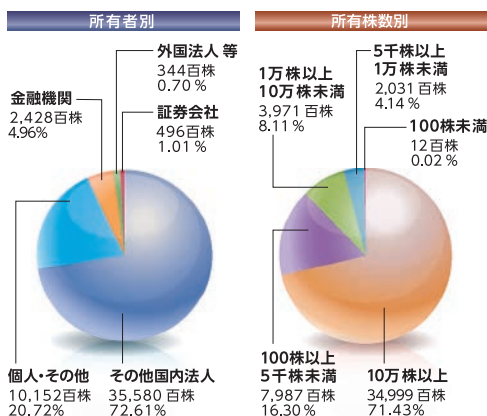
発行可能株式総数	16,000千株
発行済株式総数	4,900千株
株主数	1,650名

## ■ 大株主 ■

株主名	持株数	持株比率
住友化学株式会社	2,731千株	55.84%
塩野義製薬株式会社	334	6.83
武田薬品工業株式会社	253	5.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	180	3.69
広栄化学社員持株会	52	1.07
磯 雅 弘	48	1.00
丸石化学品株式会社	33	0.69
日本証券金融株式会社	27	0.56
住友精化株式会社	26	0.53
住友生命保険相互会社	20	0.41
ミヤコ化学株式会社	20	0.41

(注) 持株比率は、自己株式(8,470株)を控除して算定しております。

## ■ 株主分布状況 ■



## ■ 会社概要 ■ (平成30年3月31日現在)

設 立	大正6年6月17日
資 本 金	23億43百万円
従業員数	311名
事業内容	医薬、農業、塗料、染料、各種合成樹脂の 原料・中間体の製造および販売他
事業所等	東京本社：東京都中央区日本橋小網町1番8号 千葉工場：千葉県袖ケ浦市北袖25番地 研究所：千葉県袖ケ浦市北袖25番地
ホームページ アドレス	<a href="https://www.koeichem.com/">https://www.koeichem.com/</a>
証券コード	4367

## ■ 役員の一覧 ■ (平成30年6月22日現在)

代表取締役社長	岡本 敬彦	社外取締役(常勤監査等委員)	中島 博幸
常務取締役	鶴殿 靖	社外取締役(監査等委員)	瀧口 健
常務取締役	佐々木万治	社外取締役(監査等委員)	東 英雄
取 締 役	寒川公一朗		
取 締 役	石塚 郁夫		
取 締 役	村上 修平		
取 締 役	赤堀 金吾		



「このシンボルマークは、「両手と分子模型」をデザインしたもので、  
化学物質を大切に扱うという趣旨を表しています。」

(注) 本報告書に記載しております数字は、金額については表示単位未満の端数を切り捨て、その他は四捨五入により表示しております。



## 持続可能な社会への貢献

広栄化学は、今日まで培ってきた技術と信頼を基盤に、持続可能な社会への貢献に取り組んでいます。

事業活動は、株主の皆様、お客様、地域社会、従業員などのステークホルダーとの関わりの上に成り立っています。広栄化学は、これらのステークホルダーと双方向のコミュニケーションを図り、信頼関係を築き、社会の様々なニーズに応えることで、事業活動のさらなる発展とともに、持続可能な社会に貢献していきます。広栄化学は、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成を目指し、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



「持続可能な開発目標 (SDGs)」とは、Sustainable Development Goalsの略をいいます。2030年までに解決すべき人類共通の課題SDGsが国連で採択されました。社会が機能しなければ、企業は持続的な成長を望めません。広栄化学は、さまざまな事業活動を通して、SDGsに定める具体的目標を達成し、社会への貢献と企業の永続的な成長を目指します。



## 広栄化学の事業活動

### 営業活動

- ファイン製品部門  
医薬品、界面活性剤、ゴム類、農薬、染料、溶剤、接着剤 など
- 化成品部門  
接着剤、合成樹脂、塗料、インキ、潤滑油、可塑剤 など



### 安全衛生活動

- 事故防止のための社内教育・訓練
- 災害発生時の社内体制の強化 など



### 環境保全活動

- 省エネルギー、地球温暖化防止
- 産業廃棄物の削減 など



### 品質保証活動

- ISO品質マネジメント認証の取得など



### 株主・投資家との対話

- 株式情報の迅速・正確な開示 など



### 地域社会への取組み

- ボランティア活動
- 青少年の健全な育成 など



### 従業員への取組み

- 福利厚生充実
- メンタルヘルス
- 労働基準法などの遵守 など



## ステークホルダー

株主の皆様

お客様

地域社会

従業員

etc.

双方向による  
コミュニケーション、  
信頼関係の構築



## 持続可能な社会への貢献

### 伝染病の撲滅に向けて



エイズ、結核、マラリアは、三大感染症と呼ばれています。現代社会では、国境を越えた人の移動がより活発となっており、これらの感染症は、地球規模でより広がりやすい環境にあるといえます。

広栄化学は、様々な事情活動を通じて、伝染病の撲滅に向けた取組みを行っています。

#### ■ 結核治療に貢献する広栄化学

エジプトのミイラから典型的な結核の痕跡が見つかるなど、結核は人類の歴史とともにある古い病気です。日本では、明治以降の産業革命による人口集中に伴い、国内に蔓延し、「結核は国民病」とまで呼ばれました。現在日本では、結核患者数は減少しましたが、今なお、世界の開発途上の国々では重大な感染症の一つです。当社は、代表的な抗結核薬であるピラジナミドの中間体であるシアノピラジンの世界最大の製造・供給メーカーです。1985年の上市以来、医薬メーカーの支持を得て、世界の結核薬の安定供給、普及に貢献し続けています。

#### ■ 認定NPO法人マラリア・ノーモア・ジャパンへの支援

マラリアは、今なお、アフリカやアジアなどでその猛威を振るい、世界人口の約半分がマラリア感染の脅威にさらされ、多くの幼い子どもたちの命を奪っている現実があります。「マラリア・ノーモア・ジャパン」は、2040年までに世界のマラリアをゼロにすることを目指し、アメリカ、イギリス、日本などに拠点を持ち、世界各国で事業を展開する認定NPO法人です。

広栄化学は、同法人の活動趣旨に賛同し支援することが、化学会社が果たすべき役割の一つと考え、支援を実施しています。

**malaria**  
**NO MORE**  
japan



## 地域社会への取組み



当社は、千葉県袖ケ浦市を中心に、さまざまなボランティア活動を行っています。

袖ケ浦市立長浦小学校にて毎年行っている「出前理科教室」では、当社の研究員を講師として、小学5年生を対象に化学の楽しさを伝える活動を行っています。

また、袖ケ浦市にある自然環境保全緑地「しいのもり」を整備する活動にも毎月社員が参加し、里山保全活動を行っています。

昨年からは、袖ケ浦市少年野球大会を後援し、青少年の健全育成の一助となる取組みも開始いたしました。



ペットボトルキャップの収集ボランティア



出前理科教室



里山保全ボランティア



袖ケ浦市少年野球大会を後援

## 従業員への取組み



広栄化学では、従業員一人ひとりが個々の能力を最大限に発揮し、やりがいや働き甲斐をもって働くことができる環境の整備にも取り組んでいます。

従業員の心身がともに健康であることが、企業としての競争力を高め、持続可能な社会に貢献できると考えています。

### 【従業員の労務管理】

労働基準法などの労働関係法の遵守を徹底し、サービス残業や持ち帰り残業がないように、全社をあげて取り組んでいます。

### 【従業員の健康管理】

保健師を常勤させ、従業員の健康管理を図っています。従業員の日々の健康に配慮し、禁煙支援やウォーキングセミナーなどを定期的に開催しています。



ウォーキングセミナーの一コマ

### 【福利厚生施設】

2018年2月に独身寮と厚生施設を一体とした「嵯峨寮」が完成しました。

鉄筋コンクリート造の5階建てで、1階には食堂、大浴場、管理入室があり、2階には、従業員の研修施設および懇親の場として利用可能な「なのはな」を併設しています。3階から5階が居住エリアとなっています。



嵯峨寮